# エントリーNo.1

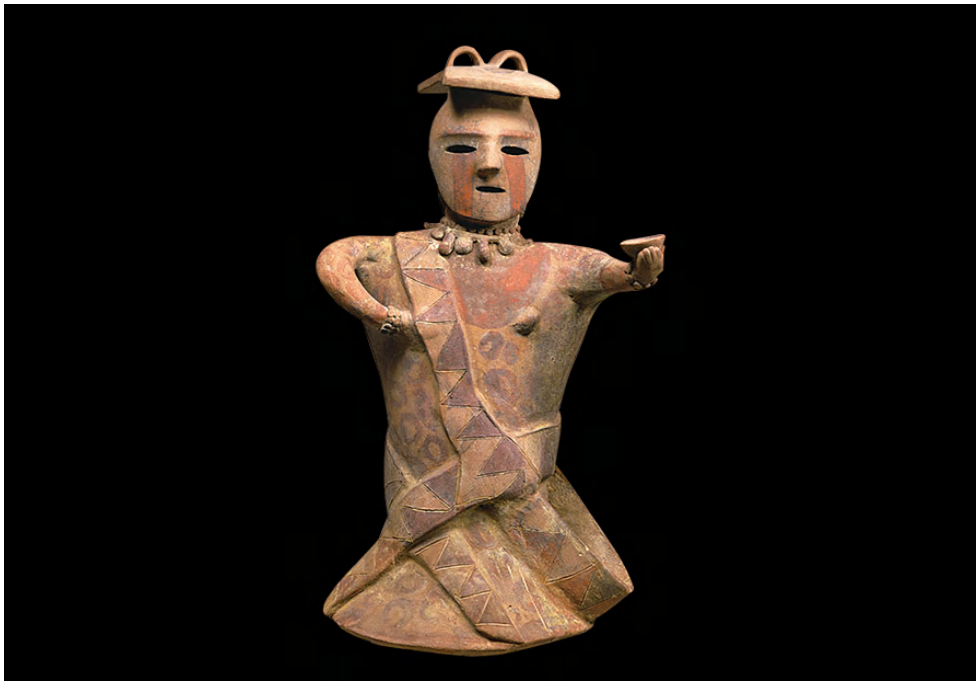
こう見えて実は巫女（女子）

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 人物埴輪頭部 | この人物埴輪頭部は、古墳時代（５世紀後半と想定される）の埴輪で、東日本でも最も古い段階の人物埴輪と位置付けられています。<br>特徴としては、頭頂部に経３．５ｃｍ程の円形孔が穿かれていて、額には幅１ｍｍの線刻による櫛が描かれています。この櫛が描かれた部分から、この埴輪が「巫女埴輪」であることがうかがえます。顔面のみの復元であり、身体の形状は不明です。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀中頃～後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 古海松塚古墳群１１号墳（大泉町） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 大泉町文化むら | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.2

顔の赤彩はマンガの流れる涙のよう。頭髪を結ぶリボンもキュート。



| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 杯をささげる女子 | 「古墳島田」と呼ばれる髪形をした女性埴輪、髪を束ねたリボンも立体的に表現される。<br>イヤリング、ネックレスなど身につけ、魔よけ模様の帯締め、襷（たすき）をかける。人物埴輪群像のなかでも中心的な、神祭りの場面を構成する１体となろう。 |
| **年　代** | |
| ６世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 上芝古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.3

全国的にも珍しい全身立像の女子埴輪。首飾りや服装から高貴な人と考えられる。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 盛装女子 | 盛装する女子像で、女子の立像としては珍しい全身表現である。分銅形の島田髷（しまだまげ）は粘土板を折り返して成形しており、丁寧な作りである。鉢巻状の帯と髷の間に櫛（くし）の痕跡（こんせき）が見える。粘土紐（ひも）で眉と鼻を一体で成形して、鼻孔を刻む。耳は円孔で耳穴をあけ粘土で耳たぶを表す。耳玉を貼付け、耳よりも大きい耳環を下げる。首元は着衣との段差により襟元（えりもと）を表現し、首飾りを貼り付ける。上衣は円弧で全体を飾り、袷（あわせ）の上下に紐を表現している。下衣は横方向の線刻を 2 条施し、間を縦方向の線刻を刻む。東京国立博物館所蔵の資料には、同品の外に武人埴輪も 2 点収蔵されており、全身像を中心とした埴輪配列の古墳が想定される。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 伊勢崎市豊城町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.4

櫛をつけた島田髷の巫女像。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 人物埴輪２ | 島田髷（しまだまげ）を結い前髪に櫛を刺した盛装女子半身像です。玉状の耳飾りをつけ、額に櫛を表現した５本の線刻がみられます。上衣は羽織状の上衣を着て、左腕を広げその手首には鈴釧(すずくしろ)〔=外側に5、6個の鈴をつけた腕輪〕、前に下げた右腕の手首には丸玉がみられます。 |
| 年　代 | |
| 6 世紀 | |
| 種　類 | |
| 人物埴輪（女性） | |
| 出土場所 | |
| 神田・三本木古墳群（藤岡市） | |
| このはにわに会える場所 | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.5

高坏を持った島田髷の巫女像。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 人物埴輪３ | 盛装女子半身像で、髪は島田髷（まげ）と推定されます。首には一連の丸玉を一連した首飾りを身につけ、右手で高坏をかかげ、手首に釧路をつけた左手を腰においています。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 神田・三本木古墳群（藤岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.6

顔の模様がきれいです。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 椅子に座り杯を捧げる巫女 | この埴輪は祭祀において中心的な役割を果たす巫女を表現していると考えられています。盛装し身分の高さが表現されています。頭には髷を結っていて、顔を赤く化粧し、首飾りや耳輪を身に付けています。また、腕と脚に玉の飾りがあります。左手では坏を捧げ持ち、神妙な表情で祭祀に挑んでいることが伝わってきます。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 塚廻り古墳群第３号古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.7

巫女で刀を持っているのが珍しいです。胸のリボンがかわいらしいです。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 大刀を持つ巫女 | この埴輪は祭祀に臨む巫女の立ち姿を表しています。盛装した、高い身分の女性を表しています。胴部のみが表現されていて、胸の前で蝶結びにしたギザギザ文様のたすきをかけています。また、右手には祭祀に用いた大刀を持っています。左手をお腹にあてて、かしこまった様子で祭祀に臨んでいることが伝わってくるのではないでしょうか。 |
| 年　代 | |
| 6 世紀前半 | |
| 種　類 | |
| 人物埴輪（女性） | |
| 出土場所 | |
| 塚廻り古墳群第４号古墳（太田市） | |
| このはにわに会える場所 | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.8

坏を片手に楽しく乾杯しているような様子です。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 坏を片手に捧げ持つ女子 | この埴輪は、酒宴の場に食べ物を運ぶ侍女を表現しています。酒宴ではどのような食べ物がふるまわれていたのでしょうか。左手で坏を捧げ持ち、右手は腰に当てています。耳輪や首飾りがありますが、服装は簡素に表現されています。巫女と比べると、身分の低い女性だったことがうかがえます。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 塚廻り古墳群第４号古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.9

手に持つ楽器で何を奏でる、古墳時代の「かしまし娘」。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 三人童女 | ひとつの台座に、正座した３人の巫女が造形される。３体とも背中に鏡をつける。体の前で手を合わせるが、手の平面に１本の弦が表現される。奈良・平安時代、竹棒で梓弓（あずさゆみ）の弦をたたき、その音により神がかり状態になり、霊を憑依（ひょうい）させて口寄せする「梓巫女（あずさみこ）」がいるが、「鳴弦（めいげん）」を用いた儀礼表現であろう。これに似た埴輪が、葉鹿野古墳（栃木県）で出土している。 |
| 年　代 | |
| ６世紀後半 | |
| 種　類 | |
| 人物埴輪（女性） | |
| 出土場所 | |
| 綿貫観音山古墳（高崎市） | |
| このはにわに会える場所 | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.10

ふわっと広がるスカートのラインが優雅さを演出。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 正座し祭具を捧げる巫女 | 盛装した女が、体の前面で何かを捧げ持つ姿である。その姿は正座を表現する。人物埴輪の座り方をみると、椅子に座る「椅座」スタイルが多い。このほか、男子像には胡座ががるが、女性像では見られない。儀礼において、男女で座り方が異なることが分かる。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 綿貫観音山古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.11

スレンダーな体型、資料館の受付嬢。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 女子像（巫女）埴輪 | 館林市第一資料館でまず目に飛び込んでくる受付嬢。「つぶし島田」の髪型をだいぶ後方で結っており、顔をしっかり見せて微笑んでいます。<br>くびれもあり、スレンダーで均整がとれた体型をしています。くねらせた腰と、左右でずれた位置に表現された手や胸、波打つ服の裾や首飾りは、躍っているかのような躍動感（やくどうかん）があります。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 渕ノ上古墳(館林市) | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 館林市第一資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.12

アンニュイな表情。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 女子像埴輪 | 首飾り・腕輪・耳環を付けており、おしゃれに着飾っています。胸に合わせの表現はなく、貫頭衣を着用していると思われます。髪型は古墳時代の女性に共通の「つぶし島田」ですが、頭頂ではなく少し後ろに表現されています。髪の結びは残っていますが、額の髪留めの表現は欠損してしまっています。<br>顔は面長で、鼻筋が通り鼻も高く、整った顔立ちをしています。また、両手を腰の上に置き、胸を張り威厳を示すかのようなポーズを取りますが、切れ長な目と口の表現はどこかアンニュイ？な表情にも見えます。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（女性） | |
| **出土場所** | |
| 天神二子古墳（館林市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 館林市第一資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.13

椅子に座って琴を弾く姿がリアル

相川考古館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 琴弾男子像 | 方形の椅子に座った男性が、膝の上に置いた琴を弾く姿を表した埴輪です。前橋市朝倉町地内から出土し、現在は伊勢崎市の相川考古館に収蔵されているこの埴輪は、国指定重要文化財となっています。琴の弦は５本で、琴頭は狭く、琴尻は広く表現されています。また、帯や帽子、太刀などの持ちものの表現に加え、顔やみずら（髪）に施された朱彩などからも、当時の習俗をうかがい知ることができます。 |
| 年　代 | |
| 6 世紀 | |
| 種　類 | |
| 人物埴輪（男性） | |
| 出土場所 | |
| 前橋市朝倉町 | |
| このはにわに会える場所 | |
| 相川考古館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.14

背中に矢を入れるための靫（ゆぎ）という道具を背負っています

（公財）県埋蔵文化財調査事業団

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 靫を背負った男子 | この埴輪は男性を表現していて、復元された全長は 80cm ほどです。頭は髪をまとめて頭巾をかぶり、耳には大きなイヤリングを付け、首には大きなネックレスを付けて胸元を飾っています。上着は袷（あわせ）の部分を２箇所「蝶々結び」で結ぶなど、とてもお洒落をしています。男性の持ち物を見てみると、背中には矢を入れる靫（ゆぎ）を背負い、左肩には弓をかけ、籠手を付けた右手は腰に差した刀に添えられているなど、戦に赴く武人としての正装をしています。大きな戦の前に正装をして儀式に臨んでいたのでしょうか。想像がふくらみます。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 今井神社古墳（前橋市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 県埋蔵文化財調査センター（発掘情報館） | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.15

あぐらをかきどっしり座る姿は威厳がある。特別な刀を持ち水玉の服をまとう。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| あぐらをかく王 | 「胡座する男性像」である。ドーム状の基部に胡坐をかいた全身像をのせる。頭髪は下げ美豆良（みずら）で、背中にも垂髪（すいはつ）表現がある。胴や足には赤彩で斑点（はんてん）が描かれ、足首でしぼむゆったりとした下衣をつける。また、足の先端に刻みがあり、素足であることが分かる。左手には飾り大刀を携え、威厳（いげん）のある王を造形したものである。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 保渡田Ⅶ遺跡（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.16

大銀杏のような髪型で、土俵入りのしぐさ。立派な胴まわりは、親しみがわく。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 力士形埴輪 | 扇状の装飾を頭頂部に表現する。下半身がないが、原山１号墳（福島県）の例から、褌（ふんどし）をつけた力士像を表現した埴輪であろう。その手振りはあたかも横綱土俵入りのしぐさを彷彿（ほうふつ）とする。別に同じつくりの個体が１点あり、２体で場面を構成しているようだ。『日本書記』には、野見宿禰（のみのすくね）と当麻蹴速（たいまのけはや）の抵力（すまひ）説話などがあり、喪葬儀礼や服属儀礼との関連が指摘されている。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 保渡田Ⅶ遺跡（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.17

荒ぶる猪を弓矢で狙う。腰には獲物をさばくナイフも。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 狩人形埴輪 | 「腰に猪をつるす男性像」で、烏帽子状（えぼしじょう）の被り物（かぶりもの）をつける。手の表現は弓矢をもつと思われ、左腰には皮製の鞘（さや）に納めた刀子（とうす）を携える。また、背中の剥落痕は弓矢を納める「靫（ゆぎ）」を背負っていたようだ。また、腰には小さな猪が造形されるが、木彫りの形代で、民俗事例から獲物（えもの）の鎮魂（ちんこん）を目的とした持ち物と考えられる。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 保渡田Ⅶ遺跡（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.18

頭部だけだが、戴冠し威厳を感じさせる風貌。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 冠をかぶる男子 | 「冠をかぶる男性」の頭部である。頂部がギザギザ王冠をかぶり、その権威を表す。椅子に座って行う儀式の中心人物と思われる。類似する冠をかぶる埴輪に、伝群馬県高崎市出土の胡座する男子（天理大学附属天理参考館所蔵）がある。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 八幡塚古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.19

全身「水玉」の装いが、オシャレ。

天理大学附属天理参考館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 胡座を組み冠をかぶる男 | 王冠形の冠を被り、倭風（わふう）大刀を携（たずさ）える。円形の台座の上に胡坐を組む姿である。<br>着衣には円筒形の模様がつき、同じ流域にある保渡田Ⅶ遺跡出土の胡座する男との共通点が見て取れる。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 高崎市八幡原町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 天理大学附属天理参考館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.20

冠を被り、首飾りを下げ、大刀を佩き、鞆を吊るすなどで飾り立てた貴人。

相川考古館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 埴輪男子立像 | 三角形で縦縞模様の冠を被り、L 字形の下げ美豆良（みずら）を表現する。首には粘土粒貼付けによる首飾りを表現し、その下には着衣袷の結び目を表現する。腰には２重の帯を巻き、右側面に結び目を垂らす。両手には篭手（こて）を表現し、左手は腰から下げた大刀に添える。左腰には鞆（とも）を下げる。両足は比較的簡素な作りで、足結表現よりも下は側方に粘土を伸ばし、袴（はかま）の裾を表現している。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 伊勢崎市豊城町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 相川考古館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.21

太刀を持った凜々しい男子です。太刀に手を添えた立ち姿がとても素敵

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 男子埴輪 | 富岡５号古墳から出土しました。この古墳は６世紀中頃に造られ直径が約 30mあり比較的大きな古墳です。墳丘の中段、横穴式石室の東側に、人物埴輪の女子・女子・武人・男子・馬飼・動物埴輪の馬の順に列を作って並べられていました。埴輪の配列がわかる貴重な資料となっています。紹介するこの埴輪は、帽子をかぶり、よろいを着ています。大刀を腰にさげて手をそえ、すてきな立ち姿の埴輪です。高さは約８０㎝あります。髪の毛はおさげ髪のように見えますが、美豆良（みずら）とよばれる古墳時代の男子に流行りの髪型です。顔は赤く塗られています。儀式を司る司祭者としての女子（巫女）が一緒に出土しています。護衛（ごえい）する武人なのでしょうか。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀中頃 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 富岡５号古墳（富岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 富岡市立美術博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.22

弓を肩にかける姿がかっこいいです。

天理大学附属天理参考館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 弓を肩にかける挂甲武人埴輪 | この挂甲武人埴輪は、挂甲（けいこう）をまとい、大刀を腰に携え、左手では弓を持っています。しかし、脚部については一切装飾がありません。国宝の挂甲武人埴輪のように、細部まで丁寧に表現される埴輪もありますが、この埴輪のように、簡略化された表現が目立つ埴輪もあります。それぞれの埴輪を見比べて、どの程度まで細部にこだわっているかじっくり見てみるのも面白いと思います。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 太田市世良田町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 天理大学附属天理参考館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.23

盾をもち武装していますが、とてもやさしいお顔の埴輪です。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 盾をもつ男子 | とても優しい表情をしていて、体系も親しみやすいような丸みを帯びたものなので、埴輪界のゆるキャラ的なポジションがピッタリだと思います。仏のような優しい顔ですが、盾を持ち、武装していることから戦士であったと考えられます。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 太田市薮塚本町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.24

肩にかかるのは髪の毛であり、「下げ美豆良」といって高貴な男性の髪型。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 人物埴輪（男性） | 鍔（つば）付の帽子をかぶり、大刀を身につけた半身像です。復元した高さは７８cmです。肩にかかるのは髪の毛であり、高貴なおさげ髪（下げ美豆良）です。<br>目の開け方として、内面側が広く切り取られていて、これは目をシャープに見せるための視覚的効果があったと思われます。<br>一緒に出土した女子埴輪といつも並んで展示されています。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性）→リア充男子 | |
| **出土場所** | |
| 玉村町八幡原 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 玉村町歴史資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.25

前髪を振り分けた、美豆良(みずら)の男子像。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 人物埴輪１ | 無口なイケメンの盛装男子半身像です。上衣は左衽(ひだりおくみ)で、２条巡る腰ひもをやや右側でリボン状に結び、帯刀（たいとう）しています。前髪を振り分けた美豆良(みずら)垂らしています。両腕にて籠手（こて）を巻き、腰に手をおいています。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 神田・三本木古墳群（藤岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.26

目を細めて、笑う農夫。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 笑う埴輪 | 目を細めて、愉快（ゆかい）に笑う農夫の人物埴輪です。鼻や眉までもが創作されたリアルな表情が見られます。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 羽毛田遺跡（藤岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.27

戴冠する王が琴を爪弾き、神意をきく姿か。今にも音色が聞こえそう。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 琴をひく男子 | 琴を弾く楽人の埴輪である。琴弾き役は男性で、椅子に座り、琴をひざの上において爪弾く姿を造形することが多い。『古事記』には天皇が琴を弾き、神が降りた皇后が神意を述べたという説話があり、神祭りの場面を構成した埴輪である。 |
| **年　代** | |
| ６世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 太子塚古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.28

「寄らば斬る」の気迫を感じるが、表情は意外に冷静？

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 武人埴輪 | 脇立（わきだて）をつけた冑（かぶと）をかぶり、右手を刀に手をあけた「抜刀スタイル」の男子像です。挂甲（けいこう）で身をかためた抜刀像は、畿内の今城塚古墳（大阪府）で認められ、６世紀前半に頃には出現したようです。このスタイルは東国にも伝播し、この埴輪は群馬県でも早い段階でつくられた、抜刀像である。 |
| **年　代** | |
| ６世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 上芝古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.29

礼儀正しくお辞儀をしています。目が切れ長で凛々しいです。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| ひざまづく男 | まさしくひざまずく姿の模範といっても過言ではないくらいの姿勢、表情をしています。手には飾りをつけた手袋みたいなもの（手甲）をつけていて、相手を見つめる姿には誠意が大いに感じられます。後ろ髪が背中の真ん中くらいまであり、頭の中心から左右に分けた髪はきれいに整えられています。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 塚廻り古墳群第４号古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.30

つばのついたおしゃれな帽子をかぶり高い椅子に座っています。ベルトに模様があります。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 椅子に座り帽子をかぶる男 | 目を引く大きなつばの付いた帽子を被っています。帽子には玉のような丸い飾り物が複数ついています。これはお祭りなどの中心的役割を果たす人物であり、首長であったと考えられています。腰には立派な太刀などを携えており、しっかりと手を膝の上に置いて正しい姿勢で椅子に座られているところに感心します。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 塚廻り古墳群第３号古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.31

王冠を被っています。当時のこの地方の王様でしょうか。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 王冠を被る男 | 少し欠けてはいますが、とても立派な王冠を被っています。そして、腰には大きな剣を携えているのがわかります。冠や大きな剣から考えられるのは当時、この地方の王様だった人なのかもしれません。左腕が折れていますが、おそらくその手は大刀を握っていたのではないかと思います。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 世良田諏訪下遺跡第３０号墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 太田市教育委員会 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.32

よろい、かぶと、大刀を身につけた凛々しい姿。ズボンの柄がおしゃれ。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 武装男子埴輪 | 左手で大刀を持ち、右手を柄頭にそえ、邪悪なものに今にも斬りかからんという抜刀のスタイル。顔の横に脇立て飾りのある冑(かぶと)をかぶり、美豆良（みずら）に結った髪を両肩に垂らしています。ズボンのような衣には唐草文様風の柄がデザインされています。挂甲を身につけてはいますが、他の武人埴輪とくらべて、どこか若々しく、軽やかな身のこなしを想像させる、少年のような武人に見えませんか。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 高塚古墳（榛東村） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.33

鉢巻状の不思議な被り物。左手に乗る鳥は鈴をつけている鷹。本来は鷹の向きは逆。

（公財）大和文華館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 鷹匠埴輪 | 線刻によって飾られた帽子は縁に突起が付けられる。下げ美豆良（みずら）を肩まで垂らし、結びの表現がされる。右手は胸に当て、左手は前方に出す。左手には尾に鈴の付いた鷹が乗るため、鷹匠（たかじょう）とされる。両手には篭手（こて）を付けている。着衣は左前の袷（あわせ）表現をし、結び目を２か所に表す。右腰には紐（ひも）状のもの、前方に大刀、左腰に鞆（とも）を下げる。<br>古代中国では紀元前から鷹狩が行われていたとされる。日本に伝来した正式な年代は不明であるが、埴輪に鷹匠が描かれることはしばしばあり、『日本書紀』でも仁徳天皇の時代に鷹飼い部の設置の記載があるため、５世紀代には為政者（いせいしゃ）の間で行われていた可能性が高い。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀中頃 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 伊勢崎市境上武士 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 大和文華館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.34

両手を上げて楽しそうに踊る姿が可愛い

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 踊る男子像 | 前橋市五代町の古墳から出土したこの埴輪は、両手を挙げた歌舞の様子を表していることから「踊る男子像」と呼ばれています。埴輪は黄泉国での死者の生活を表現したものとも、葬送儀礼の様式を表したものであるともされますが、いずれにしても、古墳時代から歌やダンスが人々の生活に根付いていたことがうかがえます。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 前橋市五代町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 前橋市立芳賀小学校 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.35

尖った帽子の形状は、ウルトラセブンをほうふつとさせる。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 帽子かぶる男子 | 下げ美豆良（みずら）に烏帽子（えぼし）様の被り物表現があるものの、両手を腰にあてた直立姿勢の埴輪である。<br>６世紀後半になると、一部の大型古墳を除き、大量生産された形式化した埴輪が並ぶようになる。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 中原１号古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 吉井郷土資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.36

手のしわとしわを合わせて、凛と祈る姿が美しい。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 胡座を組み合掌する男 | 左腰に大刀を佩（は）き、鈴付きの大帯を装着し、胡座する男。体の前面で手を合わせ、厳粛な空気感を醸（かも）し出す。この埴輪は「群」配列のひとつで、正座する女子が対面し、弦を引く３人の女子が脇に控える。人物が対座し行う儀礼の場面を表現している。 |
| 年　代 | |
| ６世紀後半 | |
| 種　類 | |
| 人物埴輪（男性） | |
| 出土場所 | |
| 綿貫観音山古墳（高崎市） | |
| このはにわに会える場所 | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.37

冑の立ち飾りがチャームポイント

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 甲冑をまとう武人 | 抜刀スタイルに加え、左手には弦弓を携える。特徴的なのは蒙古（もうこ）形の冑（かぶと）をかぶる姿。その頭頂部をみると、三角形の板状粘土を左右に振り分けるが、鳥の羽や毛などを造形したと想定される。この埴輪の並びには、盾や馬が続き、財物を誇示（こじ）する埴輪列を構成している。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 綿貫観音山古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.38

大きな振分髪は、マンガのキャラ「ダヨーンのおじさん」をほうふつとさせる。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 両手を腰にあてる振り分け髪の男 | 鈴付き帯を締め、上衣の裾にも鈴を付ける。これは、同じ古墳から出土した「胡座する男」に共通するいでたちである。特徴的なのは、大きな美豆良（みずら）と左右に振り分けた髪型であろう。この埴輪は、財物を誇示する埴輪列の先頭に位置し、盛装した王を表現していると考えられる。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 綿貫観音山古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.39

左右ともに上がった口元は笑みを浮かべているように見える。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 鍬を担ぐ農夫 | 先端の尖（とが）った帽子を被り、上げ美豆良（みずら）を結い、その下に大きな耳環を下げる。目は切れ長で、目尻はわずかに下がる。口元は大きく上方に開けられ、あたかも笑っているかのようである。目の表現と合わせ、柔和な表情を表す。眉毛は粘土紐１本で表現した一本眉である。頭頂部と美豆良、眉毛、頬は赤彩される。両手は胸に当て、手はミトン状に表現される。左肩には鍬（くわ）を担ぐ。腰は突帯（とったい）により帯を表し、左腰に刀子（とうす）を下げる。着衣の裾（すそ）までを表現し、足は円筒形で表す半身像である。本品と同じ造形のものがもう１点出土している。また、東京国立博物館が所蔵する資料には別造形で笑う表情のものがもう１点所在する。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 赤堀村 104 号墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.40

右手で箙籙を抱え、左手で弓を持つ。腰に大刀を帯びる。

国立歴史民俗博物館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 挂甲武人 | 頬当（ほおあて）の付いた衝角付冑（しょうかくつきかぶと）を被る。冑の鋲（びょう）は粘土粒貼付けによって表現する。線刻によって表現された小札甲（こざねよろい）を身にまとう。甲の重ね部分は襟元（えりもと）と腰に結びの表現がある。右手に矢の収納具である胡籙（ころく）を抱え、左手に弓を持つ。弓は左の頬当（ほおあて）まで届く長弓である。両手には篭手（こて）を付け、さらに左手首には篭手の上から弓の弦のかえりを保護する鞆（とも）を付ける。前面の左腰には大刀を下げる。両足は三角形で装飾した袴（はかま）を穿(は)く。太田市出土国宝挂甲武人とよく比較される資料であるが、本品は胡籙であるが、太田のものは背中に靫（ゆぎ）を背負い、右手は大刀にかける。また、脚部の表現も本品では装飾された袴を穿くが、太田のものは腿当（ももあて）や脛当（すねあて）が表現されており、全身武装である点が異なる。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 安堀古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 国立歴史民俗博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.41

埴輪でただ一つの国宝。埴輪といえばやはりこれ！

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| ぶじんくん | この挂甲武人埴輪（けいこうぶじんはにわ）は埴輪としてただ一つ、国宝に指定されています。この埴輪以外にも挂甲武人埴輪は出土例がありますが、その中でも特にこの太田市飯塚町出土の挂甲武人埴輪は細部まで表現されています。体には挂甲をまとい、脚には膝甲（ひざよろい）と臑当て（すねあて）をつけています。さらに右手は大刀の柄、左手には弓を握っており、背中には弓を入れる靫を背負っています。完全武装した武人を美しく表現しており、国宝になったことも頷けるのではないでしょうか。当時の工人の熟練の技を、この埴輪から感じられると思います。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 太田市飯塚町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.42

剣に手をかけた鋭い表情です。

相川考古館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 剣を持つ挂甲武人埴輪 | この挂甲武人埴輪（けいこうぶじんはにわ）は、太田市飯塚町出土の挂甲武人埴輪国宝と同じように、靫を背負い、右手で大刀の柄を握っています。抜刀をする際の武人の様子を表現しているようです。また、脚には膝甲(ひざよろい）や臑当て（すねあて）を付けず、袴（はかま）のままです。この袴にはギザギザ文様があり、白色と赤色で交互に色付けされています。さらに、膝の下には可愛らしい蝶結びの脚結（あゆい）も表現されています。よく目を凝らしてみると、細部にこだわっていることがわかると思います。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 太田市成塚町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 相川考古館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.43

鷹が小さくて可愛いです。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| たかじょうくん | 左腕に乗っている鳥は鷹です。この頃、鷹などを訓練させ、鳥類や小動物を捕える鷹狩が日本に伝わりました。鷹を扱う人を鷹匠と呼び、かっこいい鷹を自由自在に操る人はさらにかっこいいと思います。見た目はおしゃれな帽子を被っており、表情もどこか微笑んでいるようにも見えます。穏やかな雰囲気な埴輪である印象を受けます。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| オクマン山古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 太田市教育委員会 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.44

農作業の道具を身に付けた農業のプロです。

京都国立博物館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 笠をかぶり鍬をかつぐ農夫 | 農夫なので肩に立派な鍬（くわ）をかついでいます。菅笠をかぶり、髪は仕事に適した小さい美豆良（みずら）で結ばれています。左手は腰に当てて、その腰には小さい小刀をさしています。目が少し垂れていて、優しそうな印象の埴輪です。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 太田市脇屋町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 京都国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.45

出べそ

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 力士 | 富岡市にある直径 12mの円墳である芝宮７９号古墳から出土しました。６世紀後半に造られたものです。高さ約５０㎝の力士、「おすもうさん」です。目から脚の付け根まで残っています。首におしゃれな首飾りを付けていますが、着衣の表現はありません。裸ですのでおなかに粘土のおへそが貼り付けてあり、へその穴がリアルに表現されています。腰には断面台形の細めのひもをつけ、大事な部分は、厚さ 0.7 ㎝、二等辺三角形の粘土板の「フンドシ」で覆っています。お肌は「はけめ」が施され、つるつるではありません。黒色に塗られ形跡があります。色黒のおすもうさんだったのでしょうか？はだかに首飾りで「安心してください。つけてますよ。」といわんばかりのフンドシ姿です。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 芝宮古墳群７９号古墳（富岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 富岡市郷土館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.46

まるでキノコのような小さい鍬をかついでいます。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 帽子をかぶり鍬をかつぐ農夫 | 頭巾風の帽子をかぶり、肩にはキノコのような鍬（くわ）をかけています。他の鍬をかついでいる農夫に比べても、小ぶりでありキノコにしか見えません。左手は腰などではなく、胸に添えられているので、どういった状況なのかはわかりません。顔に注目してみると、目が大きく輪郭（りんかく）もシュっとしているので、現代でいうイケメンだったのではないかと思われます。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀末 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| オクマン山古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 藪塚本町歴史民俗資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.47

上半身に対する下半身のたくましさ。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 帽子をかぶる正装の男子 | 両手をさげて何かを見守るように立ち、上半身に比べて下半身が大きく立派です。腰に太刀や鞆（とも）をつけて、腕には籠手をつけており、身分の高い人物であることがわかります。埴輪の表面も凸凹しているところが、ほとんど無くて良い状態であることがわかります。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀末 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（男性） | |
| **出土場所** | |
| 四ツ塚古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.48

1500 年間王の墓をじっと守り続け、日本代表でフランスのパリに行ったこともある。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 盾持ち人埴輪 | 「盾を構えた人」を表現したもの。体の前面に盾を構え、その上に頭部を造形する。手足の表現はない。顔面は大きく、見開いた目やゆがんだ口、大きな鼻はその異様さを強調し、仮面をつけているとの学説もある。頭には烏帽子（えぼし）様のものをかぶり、盾には魔除けの文様（連続する三角形）が、線や赤塗りで描かれる。この埴輪は、古墳の外周に並べられ、墓という聖域を守護する役割をもつ。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 八幡塚古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.49

大口をあけて「すきっ歯」を見せ威嚇する、一度見ると夜眠れなくなるかも。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 盾持人埴輪 | 盾持ち人埴輪の頭部である。大きくつりあがった目や高い鼻は奇怪（きかい）さを表し、なにより大きく開いた口には、小石で歯を見立てている。大きな声で威嚇（いかく）するのか、歯をみせてニヤリと笑うのか判断しずらいが、聖域である古墳を守護する装置で、霊的なものに対する古墳時代人の思いを知ることができる。 |
| **年　代** | |
| ６世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 山名原口２号古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 観音塚考古資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.50

馬に比べて小さすぎる人のサイズ。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬に乗る人 | 馬の埴輪は出土例がたくさんありますが、この埴輪のように、人物が乗っている馬形埴輪は出土数が少なく貴重です。ここで表現されている人物は靫（ゆぎ）を背負っているようですが、人物の全体的な表現は非常に簡略化されています。この埴輪の主役は人物ではなく、馬が主役だと考えられます。当時、馬が人々に大切にされていたことが伝わってきます。 |
| 年　代 | |
| 6 世紀前半 | |
| 種　類 | |
| 人物埴輪（その他） | |
| 出土場所 | |
| 太田市高林町 | |
| このはにわに会える場所 | |
| 群馬県立がんセンター | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.51

盾を持って古墳を守る、頼もしいガードマンの姿

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 盾持人埴輪 | 中二子古墳から出土したこの埴輪は、名前の通り、盾を持った人をかたどったものです。古墳に埋葬された人物を、邪悪なものから守るために置かれたと考えられています。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 中二子古墳（前橋市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 大室はにわ館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.52

頭の飾りに凝っています。

國學院大學博物館

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 長手出土の人物埴輪 | 注目すべきところは、なんといっても頭の飾りです。丸みを帯びた帽子などではなく、つばの部分が尖っており、かっこいい仕上がりになっています。左手は腰に携えている剣に、右手はどこに置くわけでもなく、肘を曲げ、今にも走りだすような風に見えるので戦う気迫を感じることができます。 |
| 年　代 | |
| 6 世紀 | |
| 種　類 | |
| 人物埴輪（その他） | |
| 出土場所 | |
| 太田市鳥之郷町 | |
| このはにわに会える場所 | |
| 國學院大學博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.53

コックさんのような大きな帽子が特徴的です。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 伝市場出土の人物埴輪 | こちらも長手出土の人物埴輪と同様に頭に注目してしまいます。まるでコックさんのような長い帽子を被っていて、その長さは自分の顔よりも長いと思われます。両手を合わせて何かお祈りしているのかなと思います。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 太田市市場町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 個人 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.54

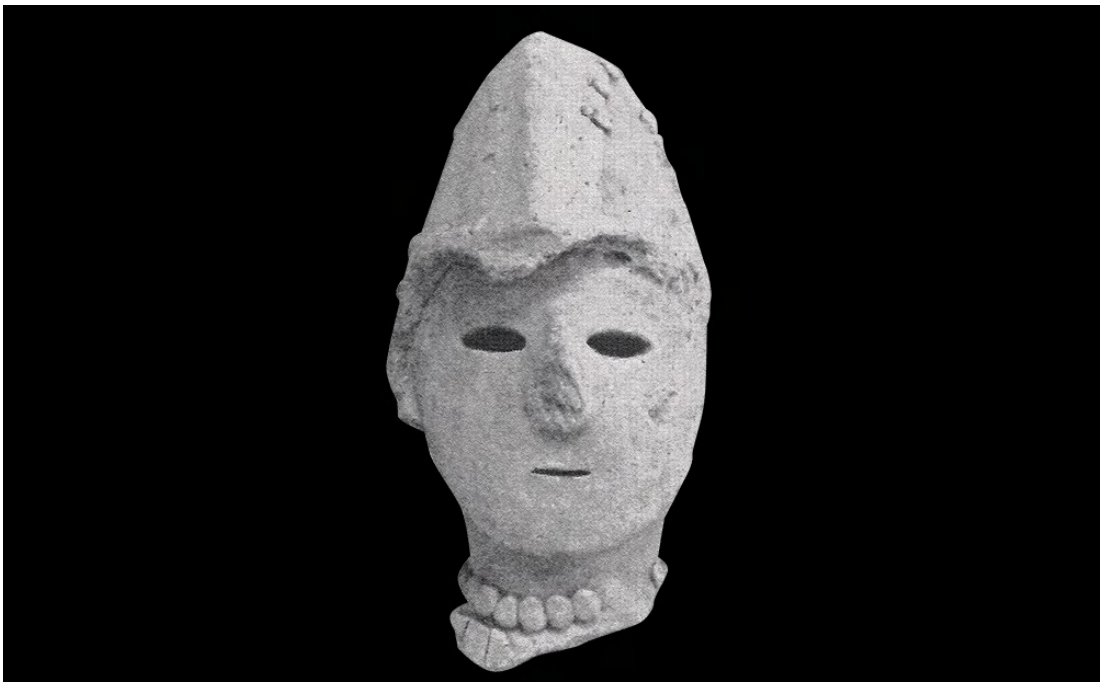
小さな目で首を傾げ、「何か用？」と言ってそう。大きな耳はひそひそ話も聞こえそう。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 盾持ち人 | アクセサリーを装着するほか、特徴的なのは目や口に比べ、大きな耳があること。目力や言葉以外に異次元の邪霊（じゃれい）の存在を察することができる聴く力を兼ね備えた表現だろうか。この埴輪は、盛装した男、冑甲（かっちゅう）の男に続き、盾形埴輪に並ぶもので、その後ろには馬が続き、財物を誇示する列のなかに位置している。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 綿貫観音山古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.55

ヘルメットと首飾りがおしゃれ。上品なたたずまいの姿。



| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 埴輪武人頭部 | 冑と首飾りをつけ、目じりには、赤彩が施されているとてもおしゃれな埴輪です。<br>冑は、衝角付冑（しょうかくつきかぶと）という、約5世紀から7世紀にかけての代表的な甲冑の一つです。軍艦の軸先につけられた衝角のように突き出していることからそのような名称がついています。<br>鼻や髪の毛（美豆良）は欠けてしまっていますが、どのような形状だったか想像してみるのも楽しいです。 |
| **年　代** | |
| 6世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 人物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 観音山古墳（千代田町） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.56

目、鼻、耳が正面を向いた扁平な顔。胴長短足でユーモラスな身体。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬形埴輪 | この馬型埴輪は、古墳時代（５世紀後半と想定される）の埴輪で、東日本でも最も古い段階の馬型埴輪と位置付けられています。<br>特徴としては、顔面は扁平（へんぺい）で目、鼻穴、耳が顔の前面に配置されています。ｆ字状の鏡板、面繋（おもがい）、手綱等が粘土紐で表現されています。尻尾は粘土紐で螺旋状に巻き上げ、尻繋（しりがい）は簡素に表現されています。<br>胴長短足なシルエットと扁平でユーモラスな顔が相まって、愛くるしく親しみやすい雰囲気を醸し出しています。 |
| **年　代** | |
| ５世紀中頃～後半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 古海松塚古墳群１１号墳（大泉町） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.57

ぐんまちゃんそっくり（！？）の可愛い顔とぽっちゃり気味の体型がキュート！

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| ぐんまちゃん埴輪 | 馬の目は本来顔の左右についていますが、粕川町膳の白藤 V－４号墳から出土したこの馬形埴輪は、目が顔の正面に作られています。白藤 V-４号墳が作られた５世紀末頃は、馬が群馬県にやってきた最初の頃とほぼ同時期と推測されるため、この埴輪は、もしかしたら本物の馬をきちんと見たことの無い人が作ったものかも知れません。馬具なども表現されてこそいるものの造りは単純で、可愛らしく、どこかユーモラスな表情が群馬県のマスコットであるぐんまちゃんに似ているため、この埴輪を「ぐんまちゃん埴輪」と呼ぶ人もいます。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀末 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 白藤 V-4 号墳（前橋市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 粕川歴史民俗資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.58

リアルなできばえで、装飾品などの表現も細かい

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬形埴輪 | 同じ白藤古墳群から出土した「ぐんまちゃん埴輪」よりもリアルな出来栄えで、装飾品などの表現も細かくなっています。当時の飾り馬具の装着位置や方法を知ることができる、貴重な資料です。 |
| **年　代** | |
| ５世紀末 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 白藤 P-6 号墳（前橋市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 粕川歴史民俗資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.59

顔の正面に寄った目。ずんぐりとした胴。馬装は線刻で革まで表現されている。

（公財）県埋蔵文化財調査事業団

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬形埴輪 | 顔の正面に両目が配置される。このような馬形埴輪は県内では前橋市白藤 V-４号墳や渋川市津久田甲子塚古墳、邑楽町古海松塚１１号墳などに見られる。このような馬形埴輪は通常のものよりも小型で、胴体も寸胴に造られることが多い。<br>本品は鋲（びょう）が表現された楕円形の鏡板をつけた轡(くつわ）をし、面繋（おもがい）の各所には鋲表現のある辻金具で留める。胸繋（むながい）には鈴を付ける。鞍（くら）は鞍敷（くらしき）と障泥（あおり）を刺突（しとつ）で表現し、革製品を示しているものと想定される。尻繋（しりがい）には鋲で縁取りされた杏葉（ぎょうよう）を垂下する。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀初頭 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 多田山古墳群４号墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 県埋蔵文化財調査センター（発掘情報館） | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.60

ころんとした丸いフォルムと愛嬌のある脱力系フェイス。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬形埴輪 | へん平でどこか愛嬌（あいきょう）のある顔、胴体が大きく、足が短い、ころんとした可愛らしい体型を持つ馬形埴輪です。口元には鏡板（かがみいた）と呼ばれる金具が、頭には面懸（おもがい）というくつわを頭につなぎ止めるヒモが、背中には鞍（くら）が表現されています。<br>古墳のテラスになっている部分の上、石室の入り口からむかって右側で出土しました。出土した状況から、足を埋めたりせずに石室の入り口を見るようにその場に置かれていたようです。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀初頭 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 津久田甲子塚古墳（渋川市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 赤城歴史資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.61

ｆ字形鏡板付轡。鞍や胸繋、尻繋、鞍、障泥などを鮮やかに赤彩する。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬形埴輪 | 顔はほとんど残存しておらず、復元が多い。Ｆ字形鏡板が使われていたのがかろうじてわかる。胸繋（むながい）には鈴を付ける。鞍（くら）は赤彩によって鞍敷（くらしき）を表現し、赤彩は障泥（あおり）まで続く。障泥下端には刀子（とうす）による刺突（しとつ）が付けられる。尻繋（しりがい）は環状雲珠（うず）を中心に前側３本、尻尾側２本の繋が表現され、雲珠からは３方向に杏葉（ぎょうよう）が吊るされる。馬具の各所には赤彩がされる。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 釜ノ口遺跡 4 号墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 伊勢崎市教育委員会 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.62

細かい飾りのついた馬具が表現されています。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬形埴輪 | この馬型埴輪は鞍（くら）や轡（くつわ）を身にまとい、さらに胸や尻を鈴で装飾された飾り馬です。馬は動物埴輪の中でも最も多く作られました。この埴輪のような飾り馬以外にも、鞍や轡のみが付けられた騎乗用の馬や、引き縄だけが表現された裸馬があります。馬の埴輪を見る際に、その装飾の有無に注目してみるのも面白いかもしれません。 |
| 年　代 | |
| 6 世紀前半 | |
| 種　類 | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| 出土場所 | |
| 塚廻り古墳群第４号古墳（太田市） | |
| このはにわに会える場所 | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.63

すらっと伸びた長い脚。そりあがったお尻。革帯には鈴を表現する。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬形埴輪 | 環状の轡(くつわ）を表現。面繋（おもがい）は菱形（ひしがた）の飾りを付ける。胸繋（むながい）と尻繋（しりがい）は三角形の線刻で飾り、鈴を付ける。鞍（くら）は前輪と後輪の間隔が狭いが居木（いぎ）を表現し、そこから輪鐙（わあぶみ）を吊るす。鞍下端から台形の障泥（あおり）を下げる。端部は刺突（しとつ）により装飾し、革を表現。本品の前後する時期から馬形埴輪が大型化し、尻繋も復条化するようになる。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀中頃 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 蛇塚古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 赤堀歴史民俗資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.64

飾り立てた、巨大な馬。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 馬形埴輪 | 関東地方では、６世紀後半に埴輪生産のピークを向かえ、形式化した埴輪群が並べられる。この馬形埴輪もそのひとつ。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 中原１号古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 吉井郷土資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.65

馬に乗った人物は大刀を帯び鞆を吊るす。威風堂々、儀式に臨む姿を表す。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 盛装した人が乗る馬埴輪 | 全国的にも珍しい盛装した人物が騎乗（きじょう）する姿を表した馬形埴輪。人物は、二股に分かれた帽子を被り、大き目の耳環（じかん）を下げ、下げ美豆良（みずら）を垂らす。粘土の段差により襟元の表現をし、首飾をする。着衣は左前の袷（あわせ）表現になっている。右手で手綱（たずな）を握り、右腰に胡籙（ころく）、左腰に大刀と鞆（とも）を下げる。両手には篭手（こて）を装着している。馬は鏡板の付いた轡（くつわ）を付け、胸繋（むながい）と尻繋（しりがい）は円形の飾りを付ける。雲殊（うず）の周辺の円形飾りには結び目が表現される。<br>　雷電神社跡古墳からは、このほかにも馬形埴輪が３頭出土しており、騎馬人物がもう１頭判明している。また、鞍の下端に短冊形水平板の付いた「横座り表現の馬」も出土しており、最終末の形象埴輪群を検討するうえで貴重な資料を提供している。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（ウマ） | |
| **出土場所** | |
| 雷電神社跡古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 大林寺 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.66

現代のインテリア置物に負けない可愛らしさです。つぶらな瞳が特徴的です。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 水鳥形埴輪 | この埴輪は、東日本最大の前方後円墳である太田天神山古墳から出土しました。水鳥を表現しており、堀の中に湛えられた水を意識し、この水鳥形埴輪がたてられたのだと考えられます。水鳥の顔がかわいらしく表現されており、見ているだけで癒されるのではないでしょうか。この他にも、動物を表現した埴輪が各地で出土しています。埴輪を見て、この動物はなにを表現しているのだろうかと考えてみると面白いかもしれません。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 太田天神山古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 太田市教育委員会 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.67

立派な牙、タテガミを逆立てた荒ぶる猪。矢が尻に刺さり、赤い流血がリアル。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 猪形埴輪 | 「手負いの猪」である。鼻は円盤状に表し、三日月形の粘土で牙を表現する。逆立つタテガミは、「荒ぶる猪」を視覚的に表現する。その腰には、木の葉状の粘土で刺さった鏃（やじり）を表し、そこから赤彩を施し、したたる血を表現する。弓矢を放つ狩人と猟犬のセットで、神意占いや領有権の宣言等の意味をもつ、狩猟儀礼の場面を構成すると考えられる。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 保渡田Ⅶ遺跡（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.68

鈴つきの首ひもがおしゃれ。魚をついばむ瞬間を切り取った造形。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 鵜形埴輪 | 頸(くび）に鈴つきの飾り紐（ひも）をつけることから、飼い鳥であることが分かる。その嘴（くちばし）は魚をくわえあげた造形で、鵜（う）の埴輪と考えられる。このため、古墳時代に鵜飼いが行われていたことを証明する国内最古の資料といえる。鵜は『古事記』にも登場し、気多大社（石川県）では、神前に鵜を放つ祭りが残る。また、多産である鵜を安産の霊力をもつとの信仰があるようだ。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 八幡塚古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.69

狩人の指示に従い、冷静かつ勇敢に猪に迫る。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 犬形埴輪 | 立体的な装飾がない動物で、猪・狩人形埴輪と関連から、獲物を追う猟犬を造形したと考えられる。古代の犬は、額から鼻先にかけてのラインにくぼみ<額段>が少なく、いわゆるキツネ顔のようで、顔の造形にも表れている。また、体部に赤彩があり、祭儀用の布をまとうという意見もあるが、虎毛表現そのものではないだろうか。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 保渡田Ⅶ遺跡（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.70

長く鋭く伸びたクチバシとピンと立った丸い尾。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 鶏形埴輪 | この埴輪は、倒れそうな円筒埴輪を、鶏がとさかで支えようとしているようなユーモラスな状態で出土しました。他の円筒埴輪や朝顔形埴輪が等間隔で並べられている中、鶏形埴輪だけは後から付け加えたように置かれていました。<br>ぴん、と立った尾羽は丸みがあり、羽は線で表現されています。くちばしはやや下向きに鋭く伸びていて、くちばしの先には鼻の穴が表現されています。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀末 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 浅田３号墳(渋川市) | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 渋川市埋蔵文化財センター | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.71

鹿の子模様の夏毛の牡鹿。尻に矢が刺さり流血表現がリアル。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 鹿形埴輪 | 「手負いの鹿」を表現した埴輪である。ピンとそばだてた耳とは緊張感を漂わせる。体部には赤彩で斑点（はんてん）表現があり、鹿の子模様の夏毛を表す。その左側面をみると、木の葉状の粘土が貼り付けられ、そこから赤彩でしたたる血を表現する。これは狩人が放った鏃（やじり）を表し、狩猟儀礼の場面を構成する埴輪となろう。 |
| **年　代** | |
| ６世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 太子塚古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.72

開いた鼻先、太い首、丸みのある背中は猪の証。犬に追われて逃げる場面。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 猪形埴輪 | ずんぐりした胴と太い首は猪の特徴をよくとらえている。顔は長めに表現され、鼻先は粘土をつぶし、開かれている。口の切れ込みは長めに開けられ、大きな口となる。猪は古くから狩猟の対象とされてきた動物である。高崎市保渡田Ⅶ遺跡１号墳の埴輪群像では猪を狩猟の対象としている場面が描かれる。本墳でも、猪のほかに犬が出土しており、同様な場面を表現していると想定される。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 上武士天神山古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.73

丸い目。口から出た舌。首に鈴。丸まった尻尾。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 犬形埴輪 | 丸く刳(く)りぬかれた目。大きく開けられた口には歯を表現し、舌を出している。犬の特徴をよく捉えた埴輪である。尻尾は、直線状に伸びるのではなく丸まっている。首には鈴を付けた紐がまかれており、飼い犬としての表現となている。日本人と犬との付き合いは古く、縄文時代の遺跡からも犬の骨が出土している。最も早くに家畜化された動物とされるが、古墳時代の人にとっても身近な動物であったことがうかがえる。 |
| 年　代 | |
| 6 世紀 | |
| 種　類 | |
| 動物埴輪（その他） | |
| 出土場所 | |
| 上武士天神山古墳（伊勢崎市） | |
| このはにわに会える場所 | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.74

とがった嘴。両足はしっかりと止まり木を掴むようにおさえている。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 鶏形埴輪 | 鶏形埴輪は動物埴輪の中で最も古い時期に作られ始めます。鶏は夜が明けるのを告げる動物であり、古墳時代の人にとっても神聖な動物であったと考えられる。<br>本品は円筒形の台に爪を立てて乗っている姿で、小さめの鶏冠（とさか）と鋭い嘴（くちばし）が特徴的である。首から尾にかけての羽毛は線刻によって表現されている。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 上武士天神山古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.75

珍しい熊の埴輪。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 熊形埴輪 | 珍しい熊の埴輪です。耳と鼻を欠損します。ネアンデルタール人も崇拝していたと言われるクマは、日本では金太郎の昔話などに登場します。アイヌ文化では、「イオマンテ」と称されて、熊を殺してその魂を神々の世界に送り返す祭りが行われていました。熊などの動物は、神が仮装して人間界に現れたもので、その皮や肉の仮装を脱が霊を神のもとへ送り出すものと考えられていました。 |
| **年　代** | |
| 不明 | |
| **種　類** | |
| 動物埴輪（その他） | |
| **出土場所** | |
| 白石古墳群（藤岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.76

上部に魔物を威嚇するかのような顔の表情が描かれている。

（公財）県埋蔵文化財調査事業団

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 器台形埴輪 | 器台形の埴輪で、透かし穴が三角形というのは古い埴輪の特徴です。実物を観察しないと分かりにくいのですが、じつは上部に人の顔が描かれています。その眼を中心に上下に直線的に線刻で表現されています。これは刺青（いれずみ）や装飾をあらわしているのでしょうか。それとも目からエネルギーを発しているのでしょうか。どちらにしてもまるで魔物を威嚇（いかく）するかのようです。 |
| **年　代** | |
| 4 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 下郷天神塚古墳（玉村町） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 県埋蔵文化財調査センター（発掘情報館） | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.77

貴人が座るための道具。前面には特徴的な装飾。全国でも珍しい埴輪です。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 腰掛形埴輪 | 椅子形埴輪とも呼ばれている。椅子は腰かける家具全般に用いられているが、古代には座具として倚子（いし）がある。座部に連結して背もたれと肘掛（ひじかけ）があるのが特徴であり、本品はこれらの特徴が見られないため、腰掛と区別している。<br>湾曲した長方形の座部があり両端は、棒状の丸い縁を付けている。台座部全面は粘土で縁取りをして方形や三角形に区画する。縁取りには「梯子（はしご）表現」と呼ばれる赤堀茶臼山古墳出土形象埴輪に特徴的に見られる工具による刺突（しとつ）がある。座面後にある山形の板は背もたれではなく、衝立（ついたて）であり、座面側は装飾がなく、背面のみ粘土による区画や梯子表現が見られる。<br>人物埴輪が腰掛又は椅子に着座した姿は表現されるが、腰掛そのものを表現したものは珍しく、形象埴輪の意義を考えれる上でも重要な資料を提示している。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀中頃 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 赤堀茶臼山古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.78

高坏を模した埴輪。坏底部に小孔が開けられる。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 高坏形埴輪 | 坏部と脚部、台部で構成される。坏部の底部に小穿孔（しょうせんこう）が見られるのが特徴である。脚部は三角形の透孔（とうこう）が開けられ、端部は粘土貼付けによって厚みを増している。台部は、ユビナデによって整形し、円形の透孔２対を開けている。食物供献（きょうけん）のための仮器と考えられる。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀中頃 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 赤堀茶臼山古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.79

当時の最新仕様武具。王の大切な宝物（財物）のひとつ。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 甲冑形埴輪 | 小さな顔面が表現される甲冑（かっちゅう）形の埴輪である。冑（かぶと）は「眉庇付冑（まびさしつきかぶと）」で、埼玉稲荷山古墳や伝高崎市八幡原出土例に似た造形となる。短甲（たんこう）は「横矧板鋲留（よこはぎいたびょうどめ)」を表現し、大きめの粘土粒を用い、鋲（びょう）を表現する。盛装の男、武人に続き、２体の甲冑形埴輪が置かれ、これに連続し馬の埴輪が並ぶ、これらは豪族の財物誇示（こじ）を目的とした埴輪列と考えられている。 |
| **年　代** | |
| ５世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 八幡塚古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| かみつけの里博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.80

関東地方ではあまり出土例が無い珍しい埴輪

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 石見型埴輪 | 奈良県の石見遺跡で最初に見つかったことから「石見型埴輪」と呼ばれるこのタイプの埴輪は、杖をかたどったものではないかと言われています。この形の埴輪はほとんどが関西地方以西で出土することが多いのですが、東日本では前二子古墳をはじめ群馬県に集中して出土しており、畿内の埴輪の情報がいち早く伝わるなど、前二子古墳に葬られた豪族は大和政権と強いつながりを持っていたと推測されます。 |
| **年　代** | |
| ６世紀初頭 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 前二子古墳（前橋市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 大室はにわ館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.81

たくさんの飾りがついた刀です。下の部分は基台です。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 大刀形埴輪 | この大刀形埴輪は曲線形の握りの部分に装飾が施されています。また、鞘（さや）の部分は刀側を明確に表現していて、まるで本物の大刀のようです。この埴輪は６世紀前半のものですが、６世紀後半の大刀形埴輪では、外形が単調に直線的に表現されるようになっていき、本来の大刀とはかけ離れた形状になっていくことがわかります。時代ごとで、どの程度まで詳細な作りがなされているのか見比べるのも面白いかもしれません。 |
| **年　代** | |
| ６世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 塚廻り古墳群第４号古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.82

手で持ちやすそうな形をした盾です。羽子板に似ています。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 盾形埴輪 | この埴輪は古墳を守るための盾を表現しています。上部は弧を描いており、よく見ると直線と鋸歯（きょし）状の文様が描かれていることがわかると思います。当時の実際の盾は皮や木で作られていましたが、まれに鉄でできたものもあったようです。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 塚廻り古墳群第３号古墳（太田市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 群馬県立歴史博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.83

貴人の顔を隠すための団扇状の道具。星形で左右非対称。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 翳形埴輪 | 翳（さしば）とは貴人の顔を隠すための道具であり、伊勢神宮の神宝に実物が見られる。高松塚古墳の石室に描かれた壁画中の女性が翳を手にしているものがある。本品は、中央に円孔を開け、その周りを粘土で縁取りする。端面も粘土で縁取りをし、その外側に三角形の粘土を貼付け、星形に仕上げる。片面の下方には「八」形に装飾し、左右非対称な形を成す。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 伊勢崎市豊城町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.84

矢を入れる筒状の武具。国宝挂甲武人の背中に背負っているものと同じ形。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 靫形埴輪 | 靫形（ゆぎがた）埴輪は、形態的に２種類に分けられる。一つは箱形であり、もう一つは奴凧（やっこだこ）形である。前者は、４世紀～５世紀の近畿地方よりも西に多く見られる。後者は６世紀の関東地方に多くみられる。太田市出土国宝挂甲武人の背中についているのは奴凧形である。<br>本品は奴凧形で、ヒレによって上下が分かれ、上位のヒレが下位のヒレよりも大きく作られる。矢筒には結び目の表現がある。矢筒からは粘土板が飛び出すが、粘土貼付けにより、矢を表現している。 |
| **年　代** | |
| ６世紀 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 伊勢崎市豊城町 | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.85

背中に矢筒を背負った姿を表現した形象埴輪で、矢先端の鏃をリアルに表現。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 埴輪靫 | 背中に矢筒を背負った姿を表現した形象埴輪で、矢先端の鏃をリアルに表現しています。この埴輪は、藤岡市指定重要文化財です。 |
| 年　代 | |
| 6 世紀 | |
| 種　類 | |
| 器財埴輪 | |
| 出土場所 | |
| 萩原塚古墳（藤岡市） | |
| このはにわに会える場所 | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.86

江戸時代に道路を開削した時に見つかった埴輪です。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 楯形埴輪 | みどり市内で見つかった形象埴輪のうち、ほぼ完全な形で見つかったものは国土古墳出土の 2 体だけです。このうち１体をエントリーしました。この埴輪は矢や刀から身を守る道具である「楯」をかたどってつくられています。楯は三角形を組み合わせた幾何学文様で、全体を飾っています。別の１体とは三角形の組み合わせ方がちがうため、それぞれ個人の持ち物を示すものだったかもしれません。<br>江戸時代に道路の開削に伴い発見されたものと伝えられるもので、この伝承が正しければ、この埴輪は保存状態良く残されていたこと、また現在まで大切に保存されてきたことが分かります。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 国土古墳（みどり市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 世音寺・大間々博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.87

高貴な人のみが持てる「玉纏大刀」

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 大刀形埴輪 | 拳（こぶし）を守るための帯に、三輪玉や鈴をつける、倭風（わふう）の装飾大刀を模した埴輪。６世紀後半になると、関東地方では埴輪生産のピークを向かえ、ややデフォルメされた器財埴輪が出現する。これらは、墓を飾り立てる「理想のモノ」として並べられ、被葬者が実際に所有していたものを模したものでないといわれる。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 中原１号古墳（高崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 吉井郷土資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.88

矢を射る時に使う道具。弓の弦が手にあたるのを防ぐ。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 鞆形埴輪 | 鞆（とも）とは、弓を射る時に弦が当たらないように保護する道具で左手首に付けられる。武人埴輪や盛装男子埴輪によく表現され、前者では左手首に付け、後者では左腰に吊るされることが多い。鞆そのものが形象埴輪として表現されたのは、人物埴輪の誕生よりも古く、近畿地方や東海地方で５世紀代から散見される。関東地方では６世紀になってから多くみられるようになる。<br>本品は丸みを持った体部が二股に分かれ片方が板状に伸びる。二股の接点には結び目の表現がある。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 高山遺跡１号墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 伊勢崎市教育委員会 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.89

帽子を象った埴輪。上から見ると鍔に星形の文様が刻まれる。

（公財）県埋蔵文化財調査事業団

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 帽子形埴輪 | 帽子は人物埴輪に表現されることが多く、その形態も様々ある。帽子そのものを埴輪としたものは、関東地方で流行するのは6世紀以降である。<br>本品は長い円筒状の台部をにツバを貼付け頂部を閉じた山高帽である。帽子中位に突帯（とったい）を持ち、ツバは三角形の線刻を連続させ、上から見ると星形になっているのが特徴である。 |
| **年　代** | |
| 6世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 波志江今宮遺跡7号墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 県埋蔵文化財調査センター（発掘情報館） | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.90

板状の勾金(まがりかね)に、三輪玉(みわだま)で飾られた大刀。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 大刀形埴輪 | 一見、大刀の柄（え）のイメージから西洋風のサーベルのように見えますが、柄頭から鍔(つば)にわたる板状のブリジの帯は、伊勢神宝玉纏大刀(たままきのたち)の勾金(まがりかね)に相当する護拳(けんご)〔=柄に付属し、柄を握る拳を守る部具〕で、柄頭から上にのび、鍔から下に反って装飾的となり、短い大刀埴輪には、鈴のような三輪玉(みわだま)、長い大刀埴輪には、勾玉(まがたま)で飾られています。こうした大刀を背負った姿を表現した埴輪です。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 器財埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 平井地区 1 号古墳（藤岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.91

切妻屋根の主屋。現代の神社建築にも残る竪魚木を乗せる。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 切妻屋根の家 | 赤堀茶臼山古墳は昭和４年の帝室博物館（現東京国立博物館）の調査で８棟の家形埴輪が出土している。そのうち最も大きい家形埴輪が本品である。切妻屋根で棟に竪魚木（かつおぎ）を乗せる。屋根中央には粘土で押縁（おしぶち）を表現し、その上位には網代（あじろ）表現をしている。粘土板を貼り付けて柱を表現し、平側３間、妻側２間になる。平側の片面には長方形の透孔（とうこう）で開放表現がされ、入口等が想定される。妻側は方形の透孔により、明り取り用の窓表現となる。<br>このほかに、切妻屋根平地建物２棟、切妻屋根高床建物３棟、寄棟屋根高床建物１棟、小型の切妻屋根１棟が出土している。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀中頃 | |
| **種　類** | |
| 家形埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 赤堀茶臼山古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.92

L 字形の板塀。小型の家形埴輪が中に入る。導水祭祀などの首長の秘儀の場所を表す。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 囲形埴輪 | 囲形埴輪と呼ばれるもので、L 字形の短辺に長方形の入り口を設ける。入口の上部には三角形の突起を貼り付ける。赤堀茶臼山古墳から出土した家形埴輪の内最も小型のものが本品の中に入り、水にかかわる祭りの一場面を表現していると考えられる。三重県宝塚１号墳では導水施設を表現した埴輪や井戸を表現した例がある。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀中頃 | |
| **種　類** | |
| 家形埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 赤堀茶臼山古墳（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 東京国立博物館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.93

竪穴建物から出土し、埴輪製作場所又は埴輪焼成場所と考えられる。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 家形埴輪 | 赤堀茶臼山古墳から出土した寄棟造家形埴輪と瓜二つである。細部では、押縁の線刻の数や取り外し可能な戸の有無などの違いはあるが、大きさや形、整形時の刷毛（はけ）の動き、刺突（しとつ）に使用する工具などほとんどの要素が一致するため、同一の作者による埴輪と考えられる。釜ノ口遺跡の埴輪は竪穴建物跡出土であるが、埴輪を製作した工房か埴輪を焼成した窯（かま）そのものとの指摘もあり、古墳時代中期の埴輪の生産と供給を検討するうえで貴重な資料となる。 |
| **年　代** | |
| 5 世紀中頃 | |
| **種　類** | |
| 家形埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 釜ノ口遺跡（伊勢崎市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 赤堀歴史民俗資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.94

関東最北の家形埴輪。当時の一般家屋の形状がわかる。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 家形埴輪 | 三峰神社裏遺跡 M-1 号墳は、関東地方の最北の地にある径 14m ほどの小さな古墳ですが、狭長な横穴石室の構造や火山灰から 6 世紀前半に、この辺りを納めていた有力者のお墓です。古墳の上側と下側には、埴輪列が回っていて円筒埴輪 48 個、朝顔形円筒埴輪 4 個以上が立ち並んでいました。この埴輪の中に 1 個だけ家形埴輪が見つかりました。<br>この家形埴輪は、大きく葺きおろした屋根と両側の妻部分が開いた上屋構造の特徴をよく表わしています。高さ約 70cm 幅 45ｃｍで、棟の上には 7 個の鰹木が乗っていて、部分的に赤色塗料を塗っています。下側の壁部分は巻き上げ整形で、上屋部分は正面と裏面を別々に作って接合しています。また、古墳のあちこちに散在し、故意に壊して撒いように破片が出土しました。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 家形埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 三峰神社裏遺跡 M-１号墳（みなかみ町） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| みなかみ町月夜野郷土歴史資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.95

大きな屋根に注目。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 家形埴輪 | 入母屋（いりもや）の屋根を強調する家の埴輪。６世紀後半以降、一部の大型古墳を除き、大量生産された形式化した埴輪が並べられるが、家形埴輪も「理想の財物」を造形したもののひとつである。 |
| 年　代 | |
| ６世紀後半 | |
| 種　類 | |
| 家形埴輪 | |
| 出土場所 | |
| 中原１号古墳（高崎市） | |
| このはにわに会える場所 | |
| 吉井郷土資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.96

入母屋造りで、上屋根の表現には迫力がある。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 家形埴輪 | 著しく大きな特徴的な破風（はふ）は、家形埴輪の一つの型です。切妻造（きりづまづくり）の高床式の穀物倉庫と考えられます。平井地区１号古墳の被葬者たちは、こうした建物を保有していたのでしょう。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 家形埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 平井地区１号古墳（藤岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.97

高さ 136 ㎝の大形普通円筒埴輪。７条突帯の埴輪は東日本で唯一。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| ７条突帯普通円筒埴輪 | ほとんどの古墳には普通円筒埴輪が飾られていました。墳丘上に樹立するこうした埴輪には、さまざまな意味があったようですが、築盛した土砂の流失防止の意味もあったと考えられます。この普通円筒埴輪は高さ 136 ㎝の大形品で、７条突帯と呼ばれる帯が７本貼付されています。７条突帯の普通円筒埴輪は、大阪府羽曳野市(はびきのし)の応神稜〔誉田御廟山（ほんだごびょうやま)〕古墳に継ぐもので、東日本でも唯一のものです。６世紀代の前方後円墳としては東国最大級を誇る七輿山古墳を飾のにふさわしい埴輪の一つです。 |
| **年　代** | |
| ６世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 円筒埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 七輿山古墳（藤岡市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 藤岡歴史館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.98

円筒埴輪に人面が付くという素朴な造形、かつ存在感のある埴輪。

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 人面付き円筒埴輪 | 円筒埴輪に人面が付くという素朴な造形、かつ存在感のある切れ長の眼差しです。また、冠をかぶっているかのような表現がなされることから、この人物はこの地域の王様をモデルにしたのかもしれません。実際、この埴輪がみつかった古墳の周辺は小泉古墳群とよばれ、古墳が密集しています。 |
| **年　代** | |
| 6 世紀 | |
| **種　類** | |
| 円筒埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 小泉大塚越 7 号古墳（玉村町） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 玉村町歴史資料館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.99

円筒形の埴輪に顔だけが刻まれているシュールさ

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 人面付円筒埴輪 | 円筒埴輪は、古墳の周りに列にして並べることで、柵のような役割をしていたと考えられています。壷などを置く台が変化したもので、土管のような形をした、ごくシンプルな埴輪です。ところが、中二子古墳から出土したこの埴輪には、人の顔が彫られています。埴輪職人の遊び心なのか、それとも、人物埴輪を作る技量が無かったのか…？いずれにしろシュールなその見た目には、一度見たら忘れられないインパクトがあります。 |
| **年　代** | |
| ６世紀前半 | |
| **種　類** | |
| 円筒埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 中二子古墳（前橋市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 大室はにわ館 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。

# エントリーNo.100

猿の親子とそれを追いかけて吠える犬の像がついている

| エントリー名 | 説　明 |
|---|---|
| 小像付円筒埴輪 | 円筒埴輪は、通常土管のようなシンプルな形のものが一般的ですが、後二子古墳から出土したこの埴輪には、動物をかたどった小像が付いています。猿の親子とそれを追いかけて吠える犬の姿は、どこかユーモラスで、見る人に漫画的なおかしみを与えてくれます。 |
| **年　代** | |
| ６世紀後半 | |
| **種　類** | |
| 円筒埴輪 | |
| **出土場所** | |
| 後二子古墳（前橋市） | |
| **このはにわに会える場所** | |
| 前橋市文化財保護課 | |

※展示していない場合もありますので、施設にお問い合わせください。